

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	国語国文学特別研究						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバ-	MJ6010
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	修士論文を書く						
授業の概要	日本語学・日本語教育に関係するテーマで卒業研究を書くことを目指します。まず、研究倫理を遵守したデータ採集など、研究者としての基本的な姿勢について学びます。次に、採取した用例やデータをどのような視点、枠組みで分析するのかなど、論文を書くため技法を身につけながら、論文を作成していきます。同時に、学会発表をすることも視野に入れ、学会発表やポスター発表をするための方法や技術を身につけます。そのため、積極的に研究会や学会にも参加することを期待します。						
到達目標	各自、テーマを見つけて修士論文を書きあげることができる。						
授業計画	<前期> 第1回 修士論文とは 第2回 研究倫理について 第3回 研究倫理について2 第4回 各分野の研究テーマ1 第5回 各分野の研究テーマ2 第6回 データ収集の方法 第7回 データの分析 第8回 テーマ決定 第9回 各自のテーマについて個別指導1 第10回 各自のテーマについて個別指導2 第11回 各自のテーマについて個別指導3 第12回 各自のテーマについて個別指導4 第13回 中間発表の準備1 第14回 中間発表の準備2 第15回 前期のまとめ <後期> 第16回 学会発表の応募の仕方 第17回 要旨の書き方 第18回 発表の準備 第19回 レジュメ、ポスター、スライドの作り方1 第20回 レジュメ、ポスター、スライドの作り方2 第21回 各自のテーマについての発表と質疑応答6 第22回 各自のテーマについて個別指導1 第23回 各自のテーマについて個別指導2 第24回 各自のテーマについて個別指導3 第25回 各自のテーマについて個別指導4 第26回 各自のテーマについて個別指導5 第27回 各自のテーマについて個別指導6 第28回 修士卒業論文の完成1 第29回 修士卒業論文の完成2 第30回 論述口頭試問						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前に渡された資料を読んでくる。（学習時間90分） 授業内で出された課題について調べてくる。（学習時間90分） 発表があたっている時は、わかりやすい資料を作成しプレゼンテーションを行う。 それ以外にも、自分の選んだ卒業論文のテーマについては、図書館などを利用して積極的に調べ、修士論文作成につなげていくこと。						
授業方法	講義と各自の発表や個人指導を中心に行う						
評価基準と評価方法	修士論文50% 口頭試問30% 最終発表20%						
履修上の注意	・出席するだけでなく、積極的な授業参加望む。 ・欠席するときは必ず事前に連絡すること。						

履修上の注意	
教科書	適宜ハンドアウトを配布
参考書	

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語学演習IA						
担当教員	黒木 邦彦					科目ナンバ-	MJ509A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	Praatを使つての音響音声分析						
授業の概要	調音の仕組みと音声の構成要素とを示したのち、音声を機器で可視化する方法と、科学的実験を計画・遂行する方法とを教授する。						
到達目標	(1) 調音の仕組みと音声の構成要素とを掴む。 (2) 音声を機器で可視化する方法を身に付ける。 (3) 科学的実験を計画・遂行する方法を身に付ける。 (4) 学説が必ずしも定まっていなことを知る。 (5) 修士論文の種を見付ける。						
授業計画	01: 授業概要、授業計画、到達目標の説明 02: 「00 Praatのインストール」「01 はじめに」の講読 03: 「02 音声分析の初歩」の講読 04: 母音空間図の作成 (1) 05: 「03 音声の編集」の講読 06: 「04 テキストグリッドの利用」の講読 07: テキスト グリッドに據るデータ作成 08: 「05 スクリプトの作成 (1)」の講読 09: 「06 より精密な音声分析」の講読 10: 母音空間図の作成 (2) 11: 「07 音声の可視化」の講読 12: 「08 初歩的な音声の合成と再合成」の講読 13: 「09 音声知覚実験 (1)」の講読 14: 音声実験構築演習 15: 全体のまとめとPraat操作試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	(1) 教科書熟読: 各章少なくとも2時間は要する。 (2) 音響分析: 週平均2時間。 授業は予習を前提に進めるので、上記授業計画を参照し、該当箇所を読んでおくこと。						
授業方法	講義で知識を附けたのち、音響分析に臨む。 パソコンを操作する時間が授業時間の大半を占める。 音響分析課題で学生から得た正答や名案は受講者全員で共有する。						
評価基準と評価方法	演習: 40点 試験: 60点 特段の理由無く3回以上欠席した者は、その最終成績を0点とする。						
履修上の注意	(1) 特段の理由無く欠席した者に対する学習補助は一切行なわない。 (2) 個人用パソコン必須。						
教科書	北原 真冬ほか (2017) 『音声学を学ぶ人のためのPraat入門』、ひつじ書房						
参考書	服部 二郎 (1951) 『音声学』(岩波全書131)、岩波書店 小泉 保 (1996) 『音声学入門』、大学書林 早田 輝洋 (1999) 『音調のタイポロジー』、大修館書店 斎藤 純男 (2006) 『改訂版 日本語音声学入門』、三省堂						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語学演習IB						
担当教員	黒木 邦彦					科目ナンバー	MJ509B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	アクセント、声調、イントネーションの理解と音響分析の実践						
授業の概要	アクセントと声調との違いを示したのち、語彙的音調と非語彙的音調との違いと音響分析方法とを教授する。						
到達目標	(1) アクセントと声調との違いを理解する。 (2) 語彙的音調と非語彙的音調との違いを理解する。 (3) 音響分析の実践力を身に付ける。 (4) 学説が必ずしも定まっていないことを知る。 (5) 修士論文の種を見附ける。						
授業計画	01: 授業概要、授業計画、到達目標の説明。「はじめに」の講読 02: 「4.1節 「アクセント」早わかり」「4.2節 東京アクセントのピッチ曲線」の講読 03: 東京式アクセント方言の音声分析 04: 京阪式アクセント方言の音声分析 05: 上記分析結果の検討 06: 「2.1節 東アジアにおける九州方言」「2.3節 語声調方言」の講読 07: 語声調方言の音声分析 (1) 08: 語声調方言の音声分析 (2) 09: 上記分析結果の検討 10: 「3.3節 アクセント分布に見る日本語の古層」の講読 11: 「4.3節 単語のアクセントと文のアクセント」「4.5節 東京方言の文末のアクセントとイントネーション」の講読 12: 東京式アクセント方言談話の音声分析 13: 京阪式アクセント方言談話の音声分析 14: 語声調方言談話の音声分析 15: 上記分析結果の検討						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	(1) 教科書熟読: 各章少なくとも4時間は要する。 (2) 音響分析: 週平均4時間。 授業は予習を前提に進めるので、上記授業計画を参照し、該当箇所を読んでおくこと。						
授業方法	講義で知識を附けたのち、音声分析に臨む。 音響分析課題で学生から得た正答や名案は受講者全員で共有する。						
評価基準と評価方法	音響分析: 40点 分析結果に基づく立論: 60点 特段の理由無く3回以上欠席した者は、その最終成績を0点とする。						
履修上の注意	特段の理由無く欠席した者に対する学習補助は一切行なわない。						
教科書	早田 輝洋 (1999) 『音調のタイポロジー』、大修館書店						
参考書	服部 四郎 (1951) 『音声学』(岩波全書131)、岩波書店 服部 四郎 [1951] (1979) 『新版 音韻論と正書法』、大修館書店 窪田 晴夫 (1999) 『日本語の音声』(現代言語学入門2)、岩波書店 窪田 晴夫 (2006) 『アクセントの法則』(岩波科学ライブラリー118)、岩波書店						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語学特殊講義IIA						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバ-	MJ507A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語文法の復習と理解の深化をめざして（品詞、語順、活用、格関係、文法カテゴリー①）						
授業の概要	本授業では、日本語の文法を復習しつつ、さらに知識や理解を深めていくための講義を行う。忘れていた事項や習っていない事項もあるかもしれないが、理解と知識の定着のために、丁寧に進めていく予定である。授業計画の内容について講義形式で行っていくが、相互にやりとりをしながら進めていきたい（その中で、ちょっとした課題を課し、発表してもらうこともあり得る）。						
到達目標	・授業内で学んだことをふまえ、日本語の文法に関する諸問題について自ら課題を見つけ、分析・考察することができるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 学校文法について 3. 品詞①（用言） 4. 品詞②（体言） 5. 品詞③（付属語） 6. 語順①（形態的類型論） 7. 語順②（文法カテゴリー） 8. 語順③（数量詞） 9. 活用①（活用の種類） 10. 活用②（接辞） 11. 述語と項①（意味役割） 12. 述語と項②（格の階層性） 13. ヴォイス①（受身、使役） 14. ヴォイス②（その他） 15. まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各回で、次回の内容に関してどの程度理解があるのかの確認も含めて導入をするので、指示（用語の確認や、論文を読んでくること等）に従って予習をしていくこと。（学習時間180分） 授業時だけでは知識の定着は望めないため、必ず復習をすること。（学習時間90分）						
授業方法	基本的には講義形式だが、受講生とのディスカッションによって議論を深めていくことを前提とする。また、一部演習形式を取ることもある。						
評価基準と評価方法	参加度50%、レポート50%						
履修上の注意	授業に積極的に参加すること。						
教科書	必要に応じて、プリントを配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語学特殊講義IIB						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバー	MJ507B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語文法の復習と理解の深化をめざして（文法カテゴリー②、複文、その他）						
授業の概要	本授業では、日本語の文法を復習しつつ、さらに知識や理解を深めていくための講義を行う。忘れていた事項や習っていない事項もあるかもしれないが、理解と知識の定着のために、丁寧に進めていく予定である。授業計画の内容について講義形式で行っていくが、相互にやりとりをしながら進めていきたい（その中で、ちょっとした課題を課し、発表してもらうこともあり得る）。						
到達目標	・授業内で学んだことをふまえ、日本語の文法に関する諸問題について自ら課題を見つけ、分析・考察することができるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 授受表現 3. テンス 4. アスペクト①（テイル形） 5. アスペクト②（方言のアスペクト） 6. ムード①（対事的） 7. ムード②（対人的） 8. 連体修飾 9. 副詞と連用修飾 10. 複文 11. 主語と主題 12. 造語法 13. 指示詞 14. 語用論 15. まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各回で、次回の内容に関してどの程度理解があるのかの確認も含めて導入をするので、指示（用語の確認や、論文を読んでくること等）に従って予習をしてくる。こと。（学習時間180分） 授業時だけでは知識の定着は望めないため、必ず復習をすること。（学習時間90分）						
授業方法	基本的には講義形式だが、受講生とのディスカッションによって議論を深めていくことを前提とする。また、一部演習形式を取ることもある。						
評価基準と評価方法	参加度50%、レポート50%						
履修上の注意	授業に積極的に参加すること。						
教科書	必要に応じて、プリントを配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語教育演習A						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバ-	MJ512A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語教育および関連領域における諸問題						
授業の概要	日本語教育の実践につなげ、活用していくことを念頭に、日本語及び日本語教育をめぐる様々な問題を考える。基本的な知識を確認・補充しつつ、自ら問題を発見し、主体的に考える力を養うことを重視したい。論文の輪読と受講生による研究発表を中心に進める。各自のディスカッションへの積極的な参加が求められる。実践を積むため学外の日本語教育機関に見学に行ったり、実習を行うことがある。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・客観的に母語である「日本語」を観察することができる。【知識・理解】 ・日本語について疑問に思ったことについて、それを研究し分析することができる。【態度・志向性】 ・日本語を母語としない者に日本語を教えることができる。【汎用的技能】 						
授業計画	第1回 イン트로ダクション 第2回 SLA研究とはどんな学問か 第3回 近年のSLA研究 第4回 研究テーマの設定 第5回 研究テーマの方法 第6回 SLA研究の種類 第7回 先行文献の集め方 第8回 先行文献の読み方 第9回 研究テーマの設定の方法 第10回 リサーチプランの作成 第11回 リサーチプランの構成 第12回 研究テーマの発表1 第13回 研究テーマの発表2 第14回 研究テーマの発表3 第15回 振り返りとまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：輪読する論文を熟読し、内容を把握するとともに問題点をあげておく。【90分】 発表を担当するときは、配付資料を用意しておく。 事後学習：出された課題や問題について解いてくる。【90分】						
授業方法	講義＋演習（ディスカッションとプレゼンテーション）を含む						
評価基準と評価方法	・授業への積極性、発表、レポートなどの総合評価とする。 発表；授業参加・積極性：60% 課題あるいはレポート：40%						
履修上の注意	欠席するときは必ず事前に連絡すること						
教科書	適宜プリントを配布						
参考書	授業中に紹介する						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語教育演習B						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバ-	MJ512B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語教育および関連領域における諸問題						
授業の概要	日本語教育の実践につなげ、活用していくことを念頭に、日本語及び日本語教育をめぐる様々な問題を考える。基本的な知識を確認・補充しつつ、自ら問題を発見し、主体的に考える力を養うことを重視したい。論文の輪読と受講生による研究発表を中心に進める。各自のディスカッションへの積極的な参加が求められる。実践を積むため学外の日本語教育機関に見学に行ったり、実習を行うことがある。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・客観的に母語である「日本語」を観察することができる。【知識・理解】 ・日本語について疑問に思ったことについて、それを研究し分析することができる。【態度・志向性】 ・日本語を母語としない者に日本語を教えることができる。【汎用的技能】 						
授業計画	第1回 イン트로ダクション 第2回 研究の背景の書き方 第3回 研究の目的・研究課題・仮説 第4回 研究の方法 第5回 研究データの集め方 1 反応時間データ 第6回 研究データの集め方 2 コーパスデータ 第7回 実験実施上の留意点 第8回 データ集計の方法 1 第9回 データ集計の方法 2 データ入力 第10回 データ集計の方法 3 エクセルを使った集計 第11回 結果から結論・考察の導き方 第12回 研究テーマの発表 1 第13回 研究テーマの発表 2 第14回 研究テーマの発表 3 第15回 まとめと振り返り						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：輪読する論文を熟読し、内容を把握するとともに問題点をあげておく。【90分】 発表を担当するときは、配付資料を用意しておく。 事後学習：出された課題や問題について解いてくる。【90分】						
授業方法	講義＋演習（ディスカッション・プレゼンテーションを含む）						
評価基準と評価方法	・授業への積極性、発表、レポートなどの総合評価とする。 発表；授業参加・積極性：60% 課題あるいはレポート：40%						
履修上の注意	欠席するときは必ず事前に連絡すること						
教科書	適宜プリントを配布						
参考書	授業中に紹介する						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本文学演習IIA／国文学演習IIA						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバ-	MJ504A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	近代出版文化の諸相						
授業の概要	近代日本の出版文化について理解を深め、現在に生きる我々の生活を見直す一助とする。						
到達目標	出版の諸相を理解することで、学問することの本質、伝える難しさを実感し、以後の研究生活の糧とする礎を築くことが出来る。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 現代文学とは？ 第3回 石田衣良のこと 第4回 文学賞の問題 第5回 文学賞審査員の問題 第6回 本屋と出版社 第7回 定価の問題 第8回 印刷の方法 第9回 流通の問題 第10回 雑誌の問題 第11回 新聞の問題 第12回 編集者のこと 第13回 小説の終わり方 第14回 編集者のこと 第15回 総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	数多く本を読み、本屋・古本屋に足を運ぶこと。自宅、図書館等での勉学と併せて100時間程度の準備時間は必要であろう。						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価80%、レポート20%						
履修上の注意	積極的な授業参加が必要						
教科書	石田衣良『チッチと子』新潮文庫 ISBN:978-4-10-125057-1						
参考書	適宜、提示する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本文学演習IIB／国文学演習IIB						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバー	MJ504B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本の近現代詩						
授業の概要	日本近現代の詩人と、その詩作品の文学的影響、価値等を考察することにより、その現代的意味を真摯に問う。						
到達目標	近現代詩を視座として日本近現代文学の持つ意味を考え、以後の研究生活の礎を築くことが出来る。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 詩とは何か 第3回 近代以前の詩 第4回 明治ひとけたの詩 第5回 明治十年代の詩 第6回 明治二十年代の詩 第7回 明治三十年代の詩 第8回 明治四十年代の詩 第9回 大正ひとけたの詩 第10回 大正十年代の詩 第11回 昭和ひとけたの詩 第12回 昭和十年代の詩 第13回 昭和二十年代の詩 第14回 昭和三十年以降の詩 第15回 総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	近代日本の文化と歴史について詳しく学習しておくこと。自宅、図書館等での勉学が100時間程度は必要であろう。						
授業方法	一部に演習を含む講義形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価50%とレポート50%						
履修上の注意	積極的な授業参加が必要						
教科書	プリントを使用						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本文学史特殊講義A/国文学史特殊講義A						
担当教員	田中 まき					科目ナンバー	MJ505A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	和歌と歌学・歌論の歴史						
授業の概要	和歌の歌風や歌学・歌論の変遷について講義する。 歌語や修辞、歌会や歌合の作法、また、『万葉集』や『古今和歌集』など歌集の撰集について考察し、歌学、歌論の変遷について探究する。						
到達目標	和歌の文学史について理解し、その流れを説明できる。【知識・理解】 和歌文学作品の名称や作者名、その特徴について説明できる。【知識・理解】 古代から中世に至る歌学・歌論の変遷について説明できる。【汎用的技能】 和歌文学に対して興味・関心を持って学ぶことができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 和歌の歌風の変遷について 第2回 歌集の撰集について 第3回 万葉集について 第4回 古今和歌集について 第5回 後撰和歌集について 第6回 拾遺和歌集について 第7回 後拾遺和歌集・金葉和歌集について 第8回 千載和歌集について 第9回 歌合について 第10回 歌会について 第11回 俊賴髓脳について 第12回 古来風体抄について 第13回 新古今和歌集について 第14回 藤原定家の歌学について 第15回 和歌文学についてのまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：歌学書や歌論書について関係する書籍を読む。（学習時間：1時間） 授業後学習：和歌の文学史について理解を深めるよう、関係論文を読む。（学習時間：1時間）						
授業方法	講義と演習（プレゼンテーションおよびディスカッション）						
評価基準と評価方法	調べてきたことの報告 70% 小テスト 20% 授業の取りの姿勢 10%						
履修上の注意	遅刻、欠席は厳に慎むこと。						
教科書	別途指示する。						
参考書	適宜指示する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本文学史特殊講義B／国文学史特殊講義B						
担当教員	田中 まき					科目ナンバー	MJ505B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	物語文学史の展開						
授業の概要	物語文学の史的展開について講義する。 物語が生まれる歴史的背景や物語の生成のあり方について探究する。						
到達目標	物語の文学史について理解し、その流れを説明できる。【知識・理解】 古代から中世に至る物語文学の変遷について説明できる。【汎用的技能】 物語文学に対して興味・関心を持って学ぶことができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 物語文学について 第2回 竹取物語について 第3回 宇津保物語などの伝奇物語について 第4回 伊勢物語について 第5回 伊勢物語の生成について 第6回 大和物語などの歌物語について 第7回 源氏物語について 第8回 源氏物語の成立について 第9回 狭衣物語について 第10回 堤中納言物語などの平安後期物語について 第11回 無名草子と風葉和歌集における物語への視座について 第12回 栄華物語について 第13回 大鏡などの歴史物語について 第14回 平家物語などの軍記物語について 第15回 擬古物語について						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：物語文学に関する書籍を読む。（学習時間：1時間） 授業後学習：物語の文学史について理解を深めるよう、関係論文を読む。 授業で扱った物語をできるだけ多く読む。（学習時間：2時間）						
授業方法	講義と演習（プレゼンテーションおよびディスカッション）						
評価基準と評価方法	調べてきたことの報告 70% 小テスト 20% 授業の取りの姿勢 10%						
履修上の注意	遅刻、欠席を厳に慎むこと。						
教科書	別途指示する。						
参考書	適宜指示する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本文学特殊講義IA／国文学特殊講義IA						
担当教員	田中 まき					科目ナンバー	MJ501A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	古典文学の写本について						
授業の概要	古典文学は写本の形で書き写されて、残されている。その中には、美しい料紙に流麗に書かれた歌集や物語がある。それらの写本について紹介し、王朝文化の華やかさや技術の高さを探究したい。なお、複製を見せたり、画像を提示したりして、具体的に紹介する。						
到達目標	古典文学の写本について理解し、説明できる。【知識・理解】 授業で学んだ古典文学の特徴を説明できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 古典文学についての概説 第2回 『古今和歌集』高野切 第3回 『古今和歌集』元永本 第4回 『古今和歌集』唐紙卷子本 第5回 『西本願寺本三十六人集』 第6回 歌仙絵 第7回 『佐竹本三十六人集』 第8回 古筆切 第9回 手鑑 第10回 装飾経 第11回 『平家納経』 第12回 冷泉家の至宝 第13回 藤原俊成の写本 第14回 藤原定家の写本 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：書誌学や写本の知識を持つよう関係図書を読む。（1時間） 授業後学習：授業で取り上げた古典文学の写本について確認をし、さらに探究する。（2時間）						
授業方法	講義と演習（プレゼンテーションおよびディスカッション）						
評価基準と評価方法	調べてきたことの報告 70% 小テスト 20% 授業の取りの姿勢 10%						
履修上の注意	遅刻・欠席をしないように努めること。						
教科書	適宜、プリントを配付する。						
参考書	必要に応じて、適宜、提示する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本文学特殊講義IB／国文学特殊講義IB						
担当教員	田中 まき					科目ナンバー	MJ501B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	古典文学の物語絵巻・絵本について						
授業の概要	古典文学の物語の中には絵巻や絵本の形で残されているものがある。それらの絵巻・絵本について紹介し、どのように物語が描かれているか探究したい。なお、複製を見せたり、画像を提示したりして、具体的に紹介する。						
到達目標	物語文学について理解し、その特徴について説明できる。【知識・理解】 物語文学に対して興味・関心を持って学ぶことができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 物語文学についての概説 第2回 『源氏物語手鑑』 第3回 『源氏物語画帖』 第4回 『絵入源氏物語』 第5回 『白描本伊勢物語絵巻』 第6回 『久保惣本伊勢物語絵巻』 第7回 『小野家本伊勢物語絵巻』 第8回 嵯峨本（古活字本） 第9回 俵屋宗達『伊勢物語図色紙』 第10回 尾形光琳『燕子花図屏風』 第11回 尾形光琳『八橋螺鈿硯箱』 第12回 『葉月物語絵巻』 第13回 『紫式部日記絵詞』 第14回 『北野天神絵巻』 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：物語文学や書誌学の知識を持つよう関係図書を読む。（1時間） 授業後学習：授業で取り上げた物語文学の絵巻・絵本について確認をし、さらに探究する。（2時間）						
授業方法	講義と演習（プレゼンテーションおよびディスカッション）						
評価基準と評価方法	調べてきたことの報告 70% 小テスト 20% 授業演習の取りの姿勢 10%						
履修上の注意	遅刻・欠席をしないように努めること。						
教科書	適宜、プリントを配付する。						
参考書	必要に応じて提示する。						